

心の病気小中生に紹介

県がガイドブック 早期相談促す

県は心の病気に関する小中学生向けのガイドブックを製作した。全国的に子ども、児童生徒に心の健康や病気についての理解を深めてもらい、早期の相談や病院受診につなげたい考えだ。

ガイドブックは精神科医の監修で、小学生向けと中学生向けの2種類作成した。中学生向けでは、うつ病や統合失調症など、若者がなりやすい心の病気の特

徴や症状、治療方法などを紹介。小学生向けでは、気分の落ち込みや不安など、身近な症状についてイラストをふんだんに使ってわかりやすく伝えている。2種類とも、巻末で電話やSNSによる県の相談窓口を記載しており、利用を促している。

県障害福祉課によると、昨年1年間で自殺した県内の小中高生は14人になる。児童生徒の中には自身の症状が心の病気だと気付

かず、早期の相談や治療に進みにくい場合も多いという。同課の五十嵐睦係長は「悩んでいることが心の病気だと知ってもらい、治療や症状の緩和につなげれば」と話している。

ガイドブックは、今月中に県内の国公立全ての小中学校へデータで配布し、タブレット端末で児童生徒に読んでもらう予定だ。内容は県のホームページでも確認できる。